



# ChigasakimateS

2010.10.1

茅ヶ崎方式英語会 協力校通信 第52号

有限会社 茅ヶ崎方式英語会 102-0073 東京都千代田区九段北1-6-6 カサイビル I  
Tel/Fax 03-3288-2770 <http://www.chigasakieigo.com/> e-mail: [info@chigasakieigo.com](mailto:info@chigasakieigo.com)

～ はじめに ～

今年の夏は全国的に記録的な猛暑となりましたが、ようやく、英語学習に最適の季節が到来しました。

今回から布施順子さんのコラム「Jmail from the UK」がスタートします。前号で、茅ヶ崎方式30周年記念へのお祝いの言葉をご紹介しましたが、布施さんは、元茅ヶ崎校講師で、茅ヶ崎方式英語教本「Book-1」の作成協力者でもあります。現在ロンドンで、日本語教師養成課程の teacher trainer として活躍されています。毎回ロンドンより、折々の風物や社会現象などをお届けいただくことになりました。お楽しみに！

## Jmail from the UK

Junko Fuse

1995年9月30日午前5時、私は飛行機の窓から外を見ていた。間もなくロンドンに到着だ。英国の私立校に住みこんで日本語と日本文化を教えるというこれからの生活に期待と不安とが入り混じった複雑な心境。外を見ると言ってもまだ外は暗い。英国は3度目の訪問だが、友人とは会わずにいきなり知らない土地で知らない人たちと会う。どうなるのだろう。外の暗さが不安をかきたてるような気がした。

雲の下に飛行機が出る。眼下に突然広がるロンドンの街並み。まだ明け方なので灯りが残っている。そこで目に飛び込んできたのが国会議事堂 House of Parliament である。ロンドンというによくこの建物が写真に出てくるが、暗闇にライトアップされて浮かび上がった議事堂は文句なく美しい。「ああ、本当にイギリスに来たんだ」という実感、そして不思議とこの風景が私の不安を消し去った。その日の日記に私は書いている。 I felt as if Big Ben had said 'welcome' to me...

あれから15年が経つ。渡英当時保守党が政権を握っていたが、日本人にとっては学生のアルバイトにすら厳しい規制と煩雑な手続きがありしばしば閉口した。ところが労働党に政権が移るとその規制が緩和し、政権の違いが市民に与える影響を外国人の立場から経験した。その後労働党政権がしばらく続くことになるが、移民問題が英国に大きく影を落とし始める。外国人にとっては労働党が政権を取ってくれた方がよいのだと思っていたが、労働党下でも締め付けが厳しくなっているのは明らかだった。しかし幸いなことに海外からの移住者（英連邦 the Commonwealth および EU 加盟国を除く）への規制を厳しくするための法改正前ぎりぎりのところで永住権を取ることができた。これでもう少なくともビザの心配はない。

この間どれだけ多くの人に支えられてきたことだろう。この身の幸運を振り返る時、私にとって茅ヶ崎方式英語会はその軸となる存在である。当然のことながら英国に暮らすには英語は必要なのだが、私にとって英語は単に何かの用を足すための道具ではない。より多くの国の人と知り合い、お互いを（違いも含めて）理解し合い、より世界を平和にしていくために欠かせないものだと思っている。それに必要な英語と学習方法を教えてくれたのが英語会である。

今回英国から拙文を書かせていただける機会をいただき、大変感謝している。英語について、英国事情について、経験したり感じたりしたことを綴っていきたいと思っている。ご一読いただければ幸いである。

(英国/ロンドン グリニッジ在住)



## ～桐英会ブログ開設のお知らせ～

茅ヶ崎方式英語会創設者、松山薫氏と、英語教育に長年携わって来られた仲間とのブログが開設されました。英語学習されている皆様にとっても興味深い内容です。英語の達人がどの様に勉強されたか等、普段はなかなか聞けない話が満載されています。是非アクセスを！！

激動の昭和を生き抜いた  
英語学者と英文ジャーナリストの直言

### 桐英会ブログ開設

浅野博 筑波大学名誉教授

- ☆ タレント司会者について
- ☆ セサミ・ストリートの復活

田崎清忠 元 NHKTV 英会話講師

- ☆ 民主党代表選挙にひとこと
- ☆ 「マンネリ」についてひとこと

土屋澄男 元文教大学教授

- ☆ 生涯学習としての英語学習
- ☆ 外国語学習の臨界期について

松山薫 元 NHK 国際放送記者

- ☆ 英語との付き合い 小学生の頃
- ☆ 犬の話

- グーグルの検索窓に桐英会と入力してクリックしてください。
- Yahooで<http://kiyofan.com> → Weblog → 桐英会ブログをクリック。

\* 茅ヶ崎方式英語会創始者 松山薫 “英語との付き合い” 連載中

《西新宿校》 東京都新宿区

代表 松田 孝

ベスト教材のひとつ 茅ヶ崎方式英語でアウトプットの勇気を

今年8月の猛暑の中、1ヶ月間ある学生のエッセイ指導をしていました。9月に UCL (University College London) の大学院で考古学の修士課程へ進むため、一時帰国しての勉強です。UCL 併設の Language Center で昨年9月から今年6月まで英語を学び、アジア学生トップの成績で進学となりました。彼は高2から当塾に来て以来、受験合格、そして大学4年間休まず英語に取り組み、大学の4年間も茅ヶ崎方式中級から上級へと、語彙力、リスニング力を積み上げていました。英国の語学センターの週1回提出のエッセイでは茅ヶ崎上級単語を努めて使うことにした結果、担当の先生によく誉められていたようです。高校時代からの語学知識と大学時代のリスニング力の強化、作文・読解クラス等の基礎がしっかりしているので、とても良い文章が書けています。継続して英語を勉強したことが彼の財産ですね。

西新宿校の特色は高校から大学、大学院、さらに社会人になっても継続して勉強する生徒が多いことでしょう。受験単語も茅ヶ崎の4000語も一緒に無駄なく定着していく様子は TOEIC、英検の成績にも反映されています。海外出張でその英語力を評価された人、今なお海外勤務で英語力を鍛え続けている人も目立ちます。ある大手メーカーの女性管理職の女性はここで勉強を始めて7年になります。娘さんも4年勉強し、大学院から今年就職しました。ある外資系生保に勤めている女性は4年勉強している中で、TOEIC920点、初めての英検で1級に合格しました。じっくり腰を据えて長期に渡って通塾する生徒が多いので実力の伸び方がよく見えます。英語が元々好きな人、得意な人がさらに英語を伸ばし続けていく姿を見ているととても嬉しいですね。

長年茅ヶ崎方式英語を導入して教えている中で、最も強調して言えることはリスニング中心に仕込みを充実させると、“アウトプットの勇気が得られる”ということです。インプットを入念にして、話す、書く時、自身を持ってアウトプットできることです。私自身も、生徒さんもみんな思い切り、自由に言いたいことが表現できるレベルを目指しています。

最後に、毎回教材作り、会の運営と多忙な英語会の皆様、いつもありがとうございます。これからもすばらしい教材をよろしく願います。

お知らせ

\*\*\*\*\*

第11回「TOEIC IP テスト」を実施します。実施期間は11月13日～11月28日です。詳細は所属の協力校へおたずね下さい。

\*\*\*\*\*

1996年秋、1年間のスイス滞在を終えて帰国したころ、書店でふと見つけた英語教本。思えば、それが茅ヶ崎方式学習法と私との出会いでした。ニュース英語のおもしろさに取りつかれて夢中で取り組んだ成果が実り、2年後には念願の英検1級と通訳ガイド国家資格にダブルで一発合格！それをきっかけに通訳翻訳、英語講師の道へと進み、2001年7月に茅ヶ崎方式南森町校を立ち上げました。その後、規模拡大のため2008年10月に拠点をターミナル駅の京橋に移し、現在に至っています。

当スクールでは20代～70代に至るまで、幅広い年代、職業の方が在籍されています。ニュース英語を通じて転職やキャリアアップをめざす社会人の方、留学を希望している学生さん、自分の世界を広げたい主婦の皆さん……。多くの受講生が授業に真剣にのぞんでおられる姿に、かつての自分自身の姿を重ね合わせてしまいます。

茅ヶ崎方式の授業はどのクラスも双方向の形式で、少人数のため、受講生には頻りに発言の機会がめぐってきます。いつ指名されるかわからない、というスリルと緊張感から生徒さんの表情は真剣そのもの。ニュースの細部を聴き取り、語彙力を高める授業構成なのでTOEICのスコアアップにも威力を発揮しています。

さらに、京橋に移転後はバイリンガルのネイティブ講師陣を指導者に迎え、インプット（＝リスニングとリーディング）中心の茅ヶ崎方式に対してアウトプット（スピーキングとライティング）に主眼を置く「時事英会話ディスカッション」のクラスを開設しました。茅ヶ崎英語との並行受講も可能なため、英語の4技能をバランス良く身につけられると大好評です。

会員同士の交流を図る食事会も年に2、3回の割合で開催しています。英語学習に関するまじめなご相談を受けることもあれば、生徒さんの意外な一面が披露されることもあり、授業を離れた貴重な情報交換の場となっています。最近の懇親会はネイティブの先生方を囲んで英語でのフリートークに花が咲き、私ひとりが講師をしていた頃とは一味違う華やかさが加わりました。

足かけ10年にわたって教室運営を続けてこられたのも、茅ヶ崎方式のシステムと教材のすばらしさのおかげです。普段、メディアで話題になっている時事問題を英語で理解し、表現するという学習方法は大人の知的好奇心を刺激し、飽きることがありません。もちろん、私自身が時事英語の指導にやりがいを感じていることも大きな理由でしょう。今後も、移り変わる時代に適宜対応し、多くの方々に支持される時事英語教室でありたいと願っています。



あとがき：読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋到来です。皆様の身近な話題、出来事などは是非お寄せ下さい。次号は来年1月発行です。